

STEP 1 絶対にすべらない問題文の読み方のルール

最も重要な行為規範は、「問題作成者である考査委員の立場になって問題文を読むこと」です。

予備試験及び司法試験の問題文は、得点に直結するヒントが満載の「宝の山」です。したがって、①「宝の山」に気付けるだけの実力をつけること及び②「宝の山」を探そうとする姿勢を持つことが大切です。

1 問題文を読む順番（全ての科目で、問題文を読む順番は同じです！！）

- ① 全体をざっと眺める。
- ② 配点割合をチェックする。→書く答案の枚数と時間配分を決めます。
- ③ 設問を細かいところまで徹底的に読み込み、尋ねられている事項をマークし、頭に叩き込む。
- ④ 問題文の定義規定である（以下「…」という。）をマークし、頭に入れる。
- ⑤ 問題文の年月日をマークする。甲、乙という主体をマークする（特に、刑法）。
- ⑥ 問題文の最後の部分を読み、何がポイントになるかを早く掴むよう努める。

2 問題文に誘導があるときの誘導の乗り方のルール

- ① 予め決めている色で問題文における誘導の箇所をマーキングする。（←これが最重要！！）
- ② マーキングした誘導を、答案で書くことが要求されている順序に番号を振る。
- ③ 番号を振った順序に従って、答案構成をする。
- ④ その順序に従って、答案を書く。

3 比較の視点を持つ（前述のとおりです。）

4 ビジュアル化（＝問題文の事案を簡単な絵にする。）

5 ブロックワーク（＝問題文を大きなまとまりごとに把握する。）

問題文の細かい特定の事実に深入りしないために行います。目的は、問題文の本質、ポイント、大きな流れを掴むことです。

- (1) 問題文を読みながら気付いたことがあったら、とりあえず何でもよいので、問題文の横の箇所に、簡単なメモを残しておきます。思いついた論点名、条文の番号、事実認定など何でもよいです。→直感を大切にすることであり、自分の最初の感覚を紙に残しておくということです。
- (2) 問題文で衡量している箇所があったら、プラス（+）とマイナス（-）を付けておきます。合憲（+）か違憲（-）か、適法（+）か違法（-）か、犯罪成立（+）か不成立（-）か等です。特に、問題文に重要な衡量箇所があったら、答案構成用紙に予め書き出しておくといよいです。
- (3) 問題文で厚く書かれている箇所を見つけたら、その箇所の横に印を付けておきます。なぜなら、問題のポイントであることが多いからです。

6 数字やキーワードと思われる部分をマークする。